【K:】Server／水道産業新聞／★2009年／2月★／2月2日（4464）★／1面（2C） 2009.02.02 14.20.12 Pag

水道産業新聞

水道産業新聞社
大 阪：〒530-0027 大阪市北区堂山町1-5
電 話(06)6312－3871
ＦＡＸ(06)6312－3874
東 京：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-10
電 話(03)5251－0303
ＦＡＸ(03)5251－3802

水道・下水道
水の総合専門紙
日本専門新聞協会加盟
水道産業新聞ホームページ
http://www.suidou.co.jp

水道器具製造販売
KOMEI
未来へのよりよき環境と循環社会をめざして
ISO14001/9001 W認証取得
株式会社 光明製作所
http://www.komei-ss.co.jp

「水の戦略機構」スタート

目標は世界をリード 21世紀型スタンダードで

森元首相が水関係者の一致団結を求めた

国民全員参加を呼びかけ

チーム水・日本の中心となる「水の安全保障戦略機構」（設立発起人＝森元首相、御手洗経団連会長、丹保北大名誉教授）が30日設立された。同機構は水に関する政産学有識者が集まり、国内外の水問題を解決していくために設立された。国をあげて取り組む仕組みが出来たのは画期的なこと。同機構は権力はないが、各界の有識者が集まっており権威はある存在。21世紀型の水のデファクトスタンダードを日本が作り、世界の水の流れをリードしていけるか同機構の活動にかかっている。

都内の中央大学で開催された第1回執行審議会は水に関する様々な有識者が集結。政界からは森元首相、自民党水の安全保障特命委員会委員長の遠藤衆院議員らが参加。麻生首相も今回の動きに関心を寄せており、出席を予定していたが国会の都合で欠席。代わりに水の安全保障戦略機構を応援するメッセージが届いた。

産業界からはチーム水・日本に参加を決めたチーム関係者が参加。学会からは高橋東大名誉教授、大垣東大教授、滝沢東大教授、山田中央大教授、沖東大教授らが並ぶ。政府も今回の動きに対応するため「水問題に関する関係省庁連絡会」を1月28日に立ち上げた。御園日水協専務理事、佐伯下水協理事など上下水道関係者はもとより多彩なメンバーが揃った。

冒頭、森元首相は「水問題の解決には日本の叡智を結集しなければならない。国民全員の参加が必要だ。政治も与野党の枠を超えて集まった。国をあげて取り組んでいきたい」と挨拶。続いて丹保氏は「現在の水のデファクトスタンダードは19世紀にイギリスがつくったもの。これから人口100億人の時代が来る。次の時代のデファクトスタンダードを日本でつくっていきたい。21世紀のバイオニアになれるかはこの機構にかかっている」と強い意気込みを見せた。

チーム水・日本の流れはまず経済団体、民間企業、NPO・NGO・市民活動、学会・協会、政府機関などが水に関する課題ごとにチームを作る。チームごとに議論された報告は同機構で内容を磨き上げられ、関係省庁に伝えられるという仕組み。

同機構は全体会議、執行審議会、専門委員会という構成。活動の事実上の中心となるのは執行審議会で全体の企画運営を担う。この日は事務局（日本水フォーラム）から専門委員会の構成案が説明された。変更の可能性はあるが専門委員会は▽基本戦略▽民間活力導入▽技術普及の3つが設置される。チームはいずれかの専門委員会に所属することになるという。

登録チーム（30日時点）
①ポリシリカ鉄による水・資源循環システム推進②水科学技術基本計画戦略③宇宙利用 気象・水観測等④水情報共有基盤⑤リン資源リサイクル推進⑥海外水循環システム協議会⑦バラスト水浄化⑧クリーン排水処理技術研究展開⑨地域小水力開発⑩海抜ゼロメートル地帯防衛計画⑪水辺都市再生⑫都市観光と舟運ネットワーク検討⑬途上国トイレ普及支援⑭生命の水道・日本⑮下水道グローバルセンター⑯チーム水道産業・日本

「執行審議会」意見百出

執行審議会では参加者から様々な意見が出た。主なものは以下の通り。

「国益にかなった行動を」、「人の教育も重要」、「流域の首長で作るチームも」、「海外へ戦略機構の情報発信を」、「退職した上下水道技術者を活用」、「技術に偏りすぎている」、「地下水源が外資に買われており国土を守る国家戦略を」、「地下水の所有権の議論を」、「食料とエネルギーの議論も不可欠」

下水道の役割が「進化」

国交省 法制定50周年式典華やかに

栄えの表彰に晴れ晴れした表情の受賞者

式典には多くの下水道関係者が出席

国土交通省は30日、「下水道法制定50周年記念式典」を開いた。大臣表彰の表彰式や松尾友矩・東洋大学学長による講演などが行われた。下水道事業の推進に貢献した個人・団体に贈られる大臣表彰は40者（28人、12団体）、感謝状10者（3人、7団体）。下水道の役割を進化させる取り組みを称えるために「いきいき下水道賞」をリニューアルして創設された「循環のみち下水道賞」は、4部門で12の取り組みが受賞した。（2面に全表彰者）

表彰式では、岡田直樹・国土交通大臣政務官が各賞の代表者に賞状を手渡した。岡田政務官は挨拶の中で、これまで下水道の発展を支えた受賞者を称え、下水道賞を受賞した浜松市立気田小学校の児童に「将来を担う小学生に参加していただき大変嬉しく、心強く思う」と話した。

松尾学長

式典の後半は、松尾学長が「下水道の歴史とこれから」をテーマに講演した。下水道は水を集める機能が重要だと解説し、都市での水利用の特徴を紹介。21世紀の下水道は、都市に降る雨を水資源として有効に使うこと・道路排水を簡易処理すること・水洗し尿をエネルギー源とすること―とする〝3分流式下水道〟だと強調。「これからの下水道は再利用に特化していくべき」などと語り、締めくくった。

水道102億円、下水道196億円
20年度第2次補正が成立

平成20年度の第2次補正予算が1月27日午後、衆参両院協議会を経て憲法の衆院優越規定により成立した。水道事業102億円、下水道事業196億円を計上。雇用対策や内需拡大といった景気対策の意味合いが強い今回の補正予算だが、上下水道サイドとしてはこれを機に、国民の安心・安全につながるライフラインの整備を進めたい。

水道関係では、①重要給水施設配水管②基幹水道構造物の耐震化事業③石綿セメント管更新事業④老朽管更新事業―の4つの事業で、補助採択基準の大幅な緩和が図られている。例えば、①では補助の対象に導水管・送水管が加えられ、④では布設20年以上経過した塩化ビニル管（配水支管を含む）が加えられるなどしている。4事業とも資本単価要件を適用しないなど、これまで対象にならなかった事業体でも活用することができる。

下水道事業では集中豪雨等防災対策、老朽化の進む社会ストックの緊急点検と戦略的維持管理を推進することになっている。豪雨対策は雨水幹線やポンプ施設の整備を推進。老朽化対策は長寿命化対策を含めた改築を実施する。2次補正限りの新規事項として下水道地震対策緊急整備事業の拡充が認められている。

また、ゼロ国債として198億円を計上。降雪期前の工事完成が必要な箇所の整備促進を図る。

上下水道で広域連携を
名古屋市が公開座談会 首長参加し上下流で討論

木曽三川上下流交流で討議

山田副市長

名古屋市上下水道局は29日、名古屋都市センターで「木曽三川上下流公開座談会」～水が通う・心が通う～を開催した。この座談会は、「名古屋市の水を支えてきた木曽三川を今後も守っていくには自治体の枠を越えた連携や協働を図ることが大切」（同局関係者）との考えに立脚して企画されたもので、同局職員や関係者、一般公募の市民ら150名が参加した。

同局の西部啓一局長をコーディネーターに▽山内博・国土交通省中部地方整備局河川部広域水質管理官▽野村誠・下呂市長▽松永清彦・海津市長▽宗宮孝生・揖斐川町長▽栗屋徳也・木曽村村長▽山田雅雄・名古屋市副市長の6名が討論に参加した。座談会に先立っては、同局の西部健次・企画部長の挨拶に続き、同部の馬渕幸男主幹が話題提供として流域連携に関する同局の考え方をプレゼンテーション。続いて、パネラーが順次登壇して自らの立場における上下流交流に関する考え方を披露した。さらに、後半は流域連携に向けた自由討論となり、「まずは連携のための拠点づくりが重要」（山田副市長）など前向きな意見が相次いで出された。

本号の内容
▽中部上下水道事業懇談会（4面）

若さに期待！ 水道GLP
日水協

愛知県にある検査機関㈶中部微生物研究所が平成20年12月16日付で日本水道協会の水道GLPを取得し1月19日、関係者が日水協本部を訪れ御園良彦・専務理事から認証を受け取った＝写真。

愛知県内は20条機関の〝激戦区〟とのこと。小田桐弘和・同研究所理事らは「水道GLPの名に恥じないように信頼性を保っていきたい」と口を揃えた。御園専務も「若い方が多いので、期待していますよ」とエールを送った。

蛇口1本からはじまる圧力制御。
コンフローオートバルブMRF-100型
株式会社 森田鉄工所
TEL本社0480(48)0891 営業本部03(5820)3088(代)

Kubota
下水道圧送管路は耐震性に優れた
クボタダクタイル鉄管
(JSWAS G-1)
株式会社クボタ 鉄管事業部

SUSTEM ステンレス・トータルシステム
きれいな水をあなたの街に
DEK 株式会社デック
〒231-0012 横浜市中区相生町6丁目102番地
☎ 045－671－1661

水音

へその緒は胎児と母親を結び、栄養補給とガス交換を行う胎児にとっての命綱だが、そのへその緒から近年、PCBなど数々の化学汚染物質が検出されているという▼超党派の国会議員や有識者からなる「水循環基本法研究会」の報告会で、子供たちが化学汚染物質による先天異常の危険にさらされているという森千里・千葉大教授の講演を聴いた▼大気や食物を通じて母親の体内に蓄積された化学物質が胎児に移行し、子供たちの心身の発達に悪影響を与えていると聞けば、化学物質の循環を何とか断ち切らねばと思う▼100年も前の日本における公衆衛生の草創期に森鴎外は、予防医学の見地から下水道整備を建言したが、森千里氏はその5代孫にあたる▼100年先の子供たちのために、化学物質を可能な限り減らした街づくりを進めようと警鐘を鳴らす先駆者の言葉に、耳を傾けたい。

耐震管路に
大口径給水管の分岐部を守る

耐震形割T字管
ヤノ・フレックスT字管TⅡ型®
TⅡ-07型

不断水工法 50th ANNIVERSARY

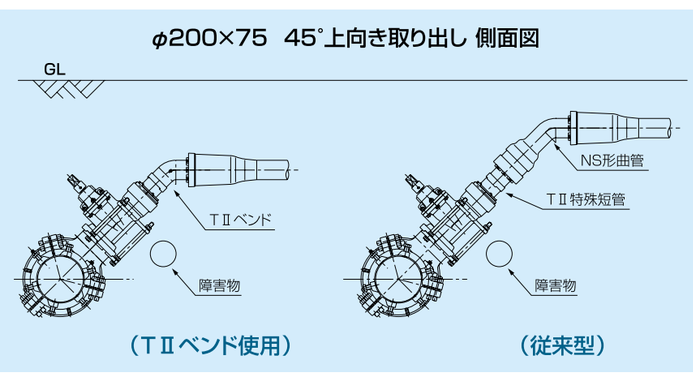
特長
●割T字管を含めたすべての箇所で分岐側離脱防止性能3DkN以上
●ダクタイル鋳鉄管不断水工法におけるフランジレス分岐
●360度すべての方向に15°の可とうが可能
●製作サイズ…100～350×75～150
※上記以外のサイズについてはお問い合わせください。

TⅡ形継手は
●東京都水道局と共同開発・共同出願・特許取得
●接合・解体が容易
●3DkN以上の離脱防止性能

TⅡベンド
ヤノ・フレックスT字管TⅡ型用ベンド

TⅡベンドは、ヤノ・フレックスT字管TⅡ型のTⅡ特殊短管を現場施工者サイドのニーズから新たに開発したTⅡ形×NS形曲管です。TⅡベンドを使用することにより、輻輳管現場や狭小な作業現場での配管を可能にします。

φ200×75 45°上向き取り出し 側面図



（TⅡベンド使用） （従来型）

特長
●上向き傾斜穿孔時において、土被りが確保しやすい
●水平90°方向取り出しにおいて、分岐方向の取り出し寸法が短くなる
●配管コストが低減
●製作サイズ…呼び径75～150×22½°・45°・90°
※本広告掲載の、製品の外観・仕様は予告なく変更する場合があります。

水道管路機器のパイオニア、不断水の
大成機工株式会社
本社/〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目1番3 www.taiseikikiko.com
北海道営業所 TEL011(272)5551(代表) 東北支店 TEL022(263)4041(代表) 東京支店 TEL03(5201)7771(代表)
名古屋支店 TEL052(551)0461(代表) 北陸出張所 TEL076(269)4441(代表) 大阪支店 TEL06(6344)1144(代表)
中国支店 TEL082(223)1020(代表) 岡山営業所 TEL086(223)7248(代表) 四国支店 TEL087(834)9595(代表)
松山出張所 TEL089(976)3391(代表) 九州支店 TEL092(481)0026(代表) 南九州営業所 TEL099(239)7151(代表)
KEEP THE LIFE LINE, LINK THE NEXT
MGMT. SYS. RvA C 086 JAB CM002